

インドネシアで体験した事

清水玲奈

私は、今回のメダン市への派遣でインドネシアに住む人々の文化や生活、価値観の違いなどを直接体験することによって、また一つ世界を見る目が変わったような気がします。今まで日本以外のアジアの国ではマレーシアに住んでいたことがあったのですが、インドネシアは日本ともマレーシアとも違う独特な雰囲気がありました。

まず、食文化では全体的に赤い色をしていて辛い食べ物が多かったです。そして食事の衛生面では日本のように潔癖なわけではなく、フルーツポンチの中に何匹かハチやアリが混ざっているなどのハプニングが有りましたが、現地の人々が気にせず食べているように私たちも虫を取りだしてから美味しく頂きました。

次に、水周りではトイレの違いが一番凄かったです。吉原さんの言っていた通りトイレトペーパーの備え付けはなく、常に床や壁、便座が濡れている状態で「なぜいつも水浸しにしたままにしまうの？」と私がホームステイ先の友達であるアストリーに尋ねたところ、「私たちは綺麗にするために水を使って掃除をしているんだよ。」と返事をもらった時はとても驚きました。この時、私は国が違うと濡れているか乾いているかの違いで清潔かどうかの価値観も大きく変わるということを知りました。これは実際に海外へ行って体験してみないと実感できないことだと思います。

また、交通面ではベチャという、バイクや自転車に屋根と補助席の付いたインドネシア特有の乗り物がありました。そして信号が日本とは違い、いつ青信号になるのかカウントダウン式で作動されていて、交通の便がスムーズになるようにする為にもこれはぜひ日本にも取り入れてほしいシステムだなと思いました。

そして、宗教の違いとして私のホームステイ先の家族のようなイスラーム教の人々は1日に5回コーランに合わせてお祈りをし、女性は肌を隠すために被り物をするなど世界史で学んだことと全く同じことを実際に見て体験することが出来てとても感動しました。アストリーの家族は私が日本のお土産としてうどんをプレゼントしたときも「豚肉が入っていないか確認してもらってもいい？」と尋ねられて、ほとんどの日本人のようにクリスマスをした後に初詣を行う、という中途半端な多信教とは違い、イスラーム教だけを厳粛に信仰しているという気持ちが伝わりました。

そしてもう一つ日本と大きく違うところは、物価がとても安いということです。例えばドーナツでは、日本では6個入りで240円のものがインドネシアでは同じ大きさのものが24個入りでおよそ230円で売られていました。私の将来の夢は喫茶店を開くことなので、高校を卒業してお金を貯めたらもう一度インドネシアへ行き、メダン市にある地元の喫茶店のお茶やお菓子巡りをしてみたいなと思いました。

これらのインドネシアの文化についても学べてとても楽しかったのですが、それ以上に印象に残ったことはインドネシアに住む人々の優しさについてです。

私が風邪を引いてしまった時もメダンの学生の人達は「ダイジョウブデスカ？」と日本語で話しかけてくれて、嬉しいと思ったと同時にたくさんの人に迷惑をかけてしまって申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

皆私たちとは初めて出会ったはずなのに、積極的に話しかけてくれて、それからはコミュニケーションを取ることが苦手な私も自分から話しかけていこうという気持ちにだんだんなっていました。そして、メダン市の学生会のメンバーの中に 1 人スプレーで大きなイラストを描く人がいて、私も高校ではデザインコースを専攻していて絵を描いているということと話したら、彼は「絵は国を超えても何かを伝えることができる。だから絵を描くことは楽しい。」と言っているのを聞いて、芸術って良いなと改めて思ったと同時に、私もこれからも絵を描き続けようと心に決めました。

最後に、この 10 日間で学んだことを活かすために、まずは英語の勉強を徹底しようと思いました。アストリーやメダンの学生会の人達は皆英語がペラペラで、もっと話したいけれど言葉が出てこなくて話せないというもどかしさが辛かったので、英語を話せるようにもっともっと勉強していきたいです。そして、私たちの次の世代のメダンに行く学生が私たち以上にいい経験ができるように、今回の派遣で見た事、感じた事などを家族や友人に広め、少しでも多くの人にインドネシアについて知ってもらい、これからもずっと市川市とメダン市の友好関係を築いていけるように貢献していきたいです。

